第1回 タカカツグループ 学生住宅設計アイデアコンペ
宮城の家づくり2023

テーマ　地域循環住宅～森と暮らす家～

・心豊かな住まいとは何か、地球や地域に貢献する住まいとは何かを考える。
・地域が活性化するために必要な“地域循環”というテーマをどのように捉え、
　宮城の家づくりにどのように活かしていくかを考える。
・地域に暮らす人々や企業にとって、「地域の森・人・産業を守り、ふるさとを元気にする」ことが
　使命であり、今回は「森」をテーマに、「もり」を多面的に捉え広くアイデアを募集する。

審査員

審査委員長	福屋 粧子（建築家　東北工業大学教授/AL建築設計事務所）
審査員	野津　弘（建築家　ＮＤＳ・野津デザイン計画工房）
	蟻塚　学（建築家　蟻塚学建築設計事務所）
	他タカカツグループより3名

(敬称略)

審査結果

「第1回 タカカツグループ学生住宅設計アイデアコンペ 宮城の家づくり2023」の審査が2023年12月に行われ、
計8点の入賞作品と8点の佳作が決定しました。
初の開催となりましたが、宮城県内はもちろんのこと、全国の宮城にゆかりのある54組の学生からエントリーを
頂きました。たくさんのご応募ありがとうございました。
また当コンペでは、受賞された皆様に審査講評をLINEにて個別にお送りいたします。ぜひご確認ください。

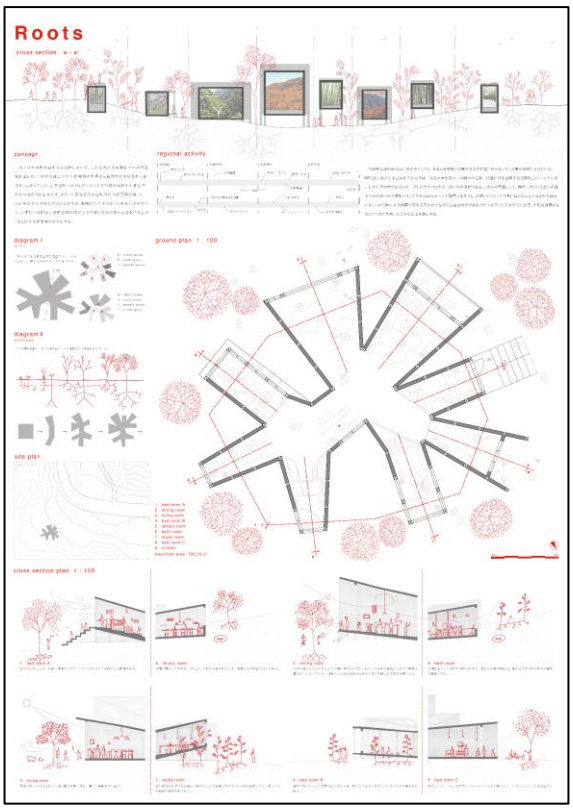
入賞者発表

	氏名(代表者のみ)	学校名	作品名
最優秀賞	古山 蓮大	東北工業大学3年	Roots
タカカツ賞	松本　みなみ	東北芸術工科大学3年	居久根とくらす
日建学院賞	佐藤　彩奈	東北工業大学4年	「つなぎ、ツムギ、またつなぐ。」
審査員特別賞	髙橋　りお	東北工業大学4年	あいまいな森ぐらし
	鈴木　香澄	仙台高等専門学校2年	循環を続けるために ー住み継いだとしても、森になったとしてもー
	山崎　健太郎	東北工業大学 大学院2年	いえのいえのいえ
優秀賞	佐野　竣亮	仙台高等専門学校1年	防森～ふるまいを生産する番屋集落～
	佐々木 禅	東北芸術工科大学2年	SUPPLY BAUM

※佳作は８点

入賞作品紹介

最優秀賞



Roots

古山 蓮大　東北工業大学3年

ミニマルな美しいドローイングで、細かく植物の形や風景の変化が描かれていて、森でに広がる動きが想像できるところが良い。立体的にはどうなっているかわからないが、平面図の不思議なかたちも魅力的である。二次審査時の模型も斜面に寄り添っていて、造形力を感じる。（福屋）

根が張るような放射状の空間は立体的にもそれぞれの視点が変わって魅力的。二次審査では空間の変容についての丁寧なコメントが高評価だった。（蟻塚）

タカカツ賞

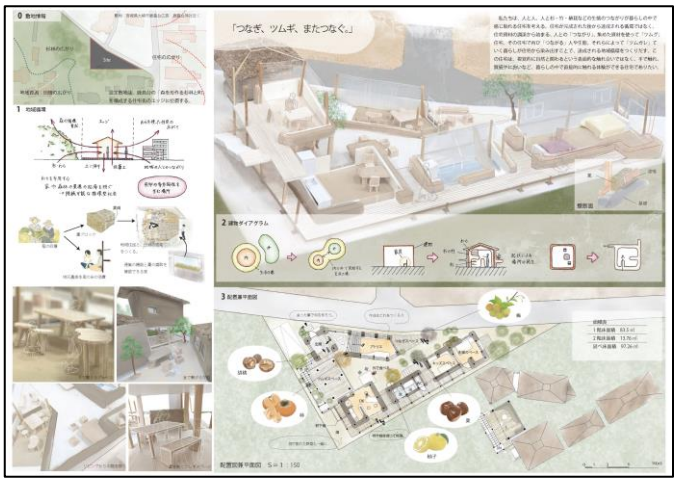
居久根とくらす

松本　みなみ　　東北芸術工科大学3年

森と、人の居場所が混ざった立体的なドローイングが非常に魅力的です。方向感をバラバラにして、多焦点的に表現してプレゼンテーション時の模型作成は大変だったと思いますが、ぜひ立体的に空間を作っていくことを続けて、独自の表現に繋げていってください。（福屋）

一番上のビジュアルが素敵でひきつけられる。建築的な表現（平面・断面）が欠けてはいるが想像を喚起させる表現が魅力的。ダイアグラムがとても面白くそれに対応する空間の具体的な表現あればもっと良い。配置平面では屋根伏ではなく平面図を記述して欲しかった。また、構造がどのようになっているか断面も欲しかった。（野津）

日建学院賞



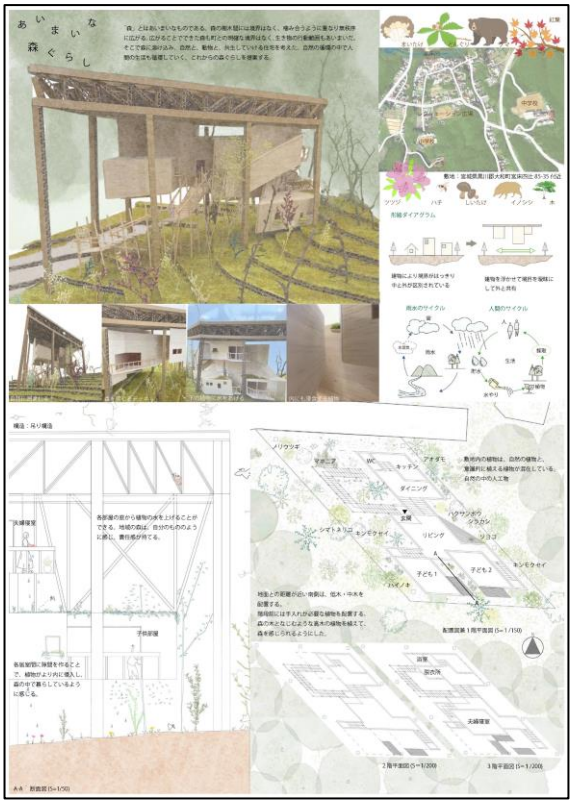
「つなぎ、ツムギ、またつなぐ。」

佐藤　彩奈　　東北工業大学4年

建物で囲われた路地的な空間が魅力的で内部と外部の境があいまいなのが魅力的。藁ブロック＋漆喰という持続可能な材料の選択も好感が持てる。森と住宅街のエッジに位置する事の良さが感じられ無いのが惜しい。エッジをなくす、あいまいにする、きっちり区画する等の周辺環境との呼応の仕方を意識的に考える事が必要と感じる。（野津）

地域農業の副産物である稲藁をセルフビルドの建築材料として活用し、建設時以降もフィジカルな地域とのつながりをつくるシステムを考案。性能、テクスチャとしても興味深い素材であることと、できる空間の自由度も高い点がよい。（蟻塚）

審査員特別賞



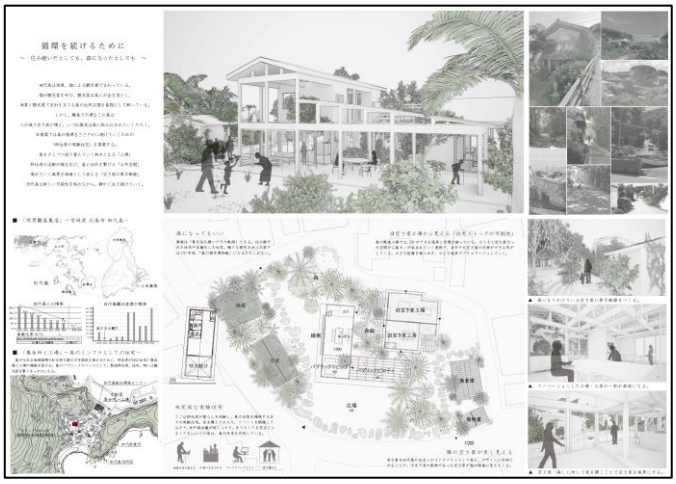
あいまいな森ぐらし

髙橋　りお　　東北工業大学4年

ランダムに重なった居場所が吊られており、細かく生き物や植物について記入があり、森で暮らす風景やにおいなどが想像できるところが良い。模型写真や図面も触感があり魅力的。審査時にも伝えたが、大屋根が特徴的な案なので、何かの方法で大屋根の意味やリアリティを伝えられると良かった。（例えば雨水利用について言及する、構造詳細について言及するなど）（福屋）

森の自然と共生するための空間をまっすぐに考えた意欲的な作品。人間の空間と自然の距離感の取り方が大きな屋根や高低差で処理されている点が魅力的な空間につながっている。（蟻塚）

審査員特別賞



循環を続けるために
ー住み継いだとしても、森になったとしてもー

鈴木　香澄　　仙台高等専門学校2年

うすいグリーンで統一され、美しいレイアウトのプレゼンテーションが印象的。離島という敷地も良い。模型も非常に作り込んであった。空き家と新築を併用するのはよいと思うが、住み方の設定に不思議な部分も感じた。また住み継ぎor森どちらになってもいいというのは、自然なようでいてすこし投げやりな印象も受けるので、静かになっていく集落で過ごすことを、よりポジティブな未来として考えて行ってほしい。（福屋）

離島の限界集落は状況が一変し、森を荒廃の象徴として捉えるディストピア感のある作品。それでも未来に対する小さな可能性を探るような視点が好印象。
（蟻塚）

審査員特別賞

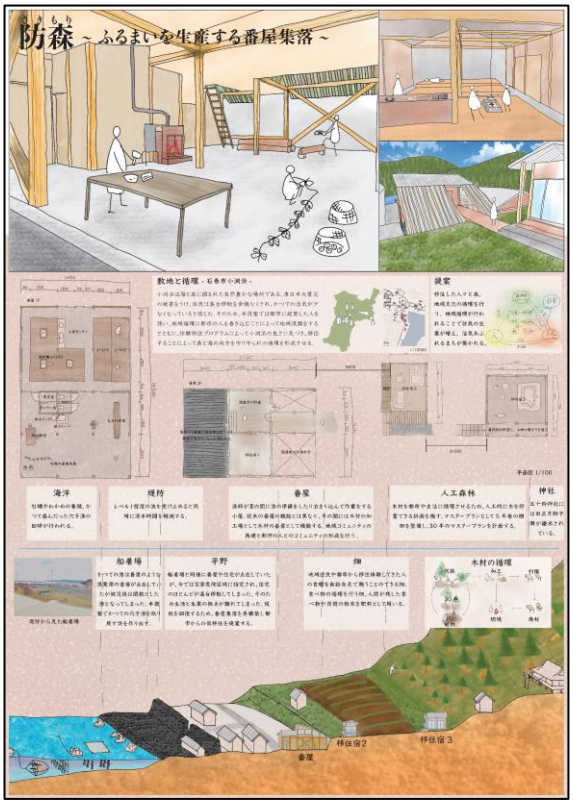
いえのいえのいえ

山崎　健太郎　　東北工業大学 大学院2年

入れ子構造の提案が自然と一体となっていて良い。イマージ及び図面の構成も素晴らしい。2階のプランがなくこの入れ子構造と居室の関係が見えないのが残念。また、入れ子構造の通路が日射の遮断、日射の取得等で広さが変わるなど温熱環境に配慮して計画となっていればもっと良かった。（野津）

建物外皮をすべて建具とした入れ子構造となっており、外観にゆらぎと自由度をもたらしている。秀逸なプレゼンテーションが際立っている。地域循環のテーマに迫れたらもっと良かった。
（蟻塚）

優秀賞



防森～ふるまいを生産する番屋集落～

佐野　竣亮　　仙台高等専門学校1年

地域のリサーチをベースに、地域全体を含めた暮らし方が提案されているのが良い。番屋の建築の構法について、さらに説得力が持たせられるといいのではないか。桃浦の「もものうらビレッジ」などにもぜひ宿泊してみてください。（福屋）

コンセプト及びプログラムの設定が良く、森～海への循環を意識した社会的な作品で好感が持てる。恵みを運ぶ川、地下水や途中に介在する田畑の事なども視野に入れれば完璧。建築的にはもう少し魅力的な空間となるための外部との繋がりの表現が欲しかった。（野津）

優秀賞

SUPPLY BAUM

佐々木　禅　　東北芸術工科大学2年

地域でのNPO法人の活動に即した施設の提案は良くリサーチをしていて魅力的。プランもシンプルですがすがしい空間。薪の製造、供給を考えると材料の運搬、荷下ろし、薪のストックヤード、供給の為の道路等が必要となるがその記述が無い。また、バームをイメージするなら年輪的な壁の構成が浮かんでくる、その言葉に呼応した空間や、構造を考えてみることも有です。（野津）

地域で伐倒した木を薪に加工する過程を人づくりに活かし、関わる範囲を広げていこうとしている持続性を見据えた視点が秀逸。シンプルで端正なプランも魅力がある。（蟻塚）